

# 和歌山県立きのかわ支援学校 マンスリータイムズ4月号

## 出会いと自分発見



(高等部1年A組教室表示)

始業式が終わると、学部集会があります。この学部集会は特別です。なぜなら、この集会の場で学部主事から、生徒に対してクラスや担任発表を行う場となっているからです。生徒にとっては、自分のクラスがわかり、仲間がわかる、担当する先生がわかるドキドキする瞬間です。時には歓声をあげる場面も見受けられます。

しかしながら、高等部2、3年生も1年前、2年前は1年生。やはり入学生と同じように、緊張しながら、不安な気持ちでいっぱいだったと思います。時間の流れは大切です。

生徒に個人差はありますが、5月の連休が過ぎ、少しずつ学習環境に慣れ、仲間や担任教師を知り、学校という社会がわかるようになり、自分を表現することができるようになります。

あらためて、小学部入学児童7名、中学部入学生徒15名、高等部入学生徒24名、入学おめでとうございます。

全校生徒174名で平成25年度「きのかわ支援学校」が始まります。保護者の皆様方、関係各位の皆様、ご協力ご支援よろしく申し上げます。

## 校内クリーンアップ作戦中



平成25年度が始まるに当たり、校長先生から「学校を綺麗にしよう」というメッセージがあり、各学部で話し合って掃除の回数を増やしたり、花を植えたり等、取組が始まっています。写真は小学部児童会の取組です。新聞を水に濡らし、丸めて廊下にまき、ほうきで集めていました。

子どもたちの活動を見せてもらいながら、そもそも、ゴミとは何かを理解できているかほうきの持ち方、ほうきを連続して使いながら一カ所に集める技術、ほうきとちりとりを同時に使う技術、「綺麗にしようね」の「綺麗」、「すみを掃除してね」の「すみ」、「ここに集めてね」の「ここ」の意味理解など、自閉的傾向を有する児童生徒には、清掃活動は、なかなか難しい学習であると思いました。

進路指導の場面から見ると、事業所の方から挨拶や掃除ができることの大切さをよく聞きます。また、今年度、西棟がリニューアルになります。学校を綺麗にする意識と高め、今回の授業における新聞紙、集める場所の表示など、わかりやすい学習環境をどう作り上げて授業を行い、加えて綺麗になったという実感をどう具体的に児童生徒に理解させるかを明確にして、掃除を楽しくできることを目標に取組を進めてまいりたいと考えています。

## 橋本市高野口町紹介

新入生の諸君、きのかわ支援学校によろこそ。入学式後、皆さんは学部やクラスで「きのかわ支援学校」に関するオリエンテーションの授業があったと思います。今回のマンスリータイムズでは、皆さんが学ぶ場所「橋本市高野口町」を紹介します。

橋本市高野口町は、平成7年3月1日、隣接する橋本市と合併し、橋本市高野口町となりました。

また、高野山の麓の町でもあり、以前は日本全国のパイル織物の80%を生産し、新幹線の座席は全て「MADE IN KOUYAGUCHI」だったそうです。

地図をご覧ください。本当に恵まれた学習環境といえます。

例えば、子どもたちが楽しみながら、豊かな情感を育て、基礎体力の向上を図ることができる、一人で欲しい物を買うため、お店に行き、必要な物を買うことができる、一人で公共交通機関を活用し、目的地に行くことができる等を学べる施設が周辺にあり、歩いて行けます。なかでも、橋本市温水プール「レインボー」(橋本市高野口町向島135番地)は小学部児童、中学部・高等部生徒とも授業で温水プールを選択すれば、週1回、年間通して学ぶことができます。

新入生の諸君、授業を通して自然や文化、歴史や産業、公共施設や交通機関等、いっぱい学びましょう。



